

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
ET45G001	教育心理学特論(Special Seminal of Educational Psychology)					教育心理学						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1	大学院教育学 研究科			氏名 麻生 良太  E-mail ryoaso@oita-u.ac.jp 内線 7584						
授業の概要	学校教育の現場で求められる実践的指導力を身につけるためには、子どもの発達およびそれに伴う思考内容を理解し、その発達・思考内容に沿った形での指導・支援を行うことが必要である。 この授業では、子どもの認知の発達や社会性の発達について学び、それが学校教育の現場でどのように生かされているのか、また生かされるべきかについて議論することを目的とする。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	教育の問題を考える前提となる発達理論や教授方略についての知見を身につけ、それをもとに学校での実践のあり方を考えること											
目標2												
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	オリエンテーション(授業の進め方)											
2	ピア・ラーニングとは											
3	ピア・ラーニングを構成する諸理論(1): 援助要請											
4	ピア・ラーニングを構成する諸理論(2): 社会比較											
5	ピア・ラーニングを構成する諸理論(3): 動機づけ											
6	ピア・ラーニングを構成する諸理論(4): 目標理論											
7	ピア・ラーニングを構成する諸理論(5): 自己調整学習											
8	ピア・ラーニングを構成する諸理論(6): 理解の変容											
9	ピア・ラーニングを構成する諸理論(7): 被援助志向性											
10	ピア・ラーニングを推進する過程(1): 問題解決課程											
11	ピア・ラーニングを推進する過程(2): 概念変化											
12	ピア・ラーニングを推進する過程(3): メタ認知											
13	ピア・ラーニングの展開(1): 教育実践の創造											
14	ピア・ラーニングの展開(2): 発達の遅れの子どもの協同											
15	まとめ: ピア・ラーニングの展望											
ラーニング	A:知識の定着・確認					工 夫 そ の 他 の						
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修											
	事後 学修											
教科書	中谷素之・伊藤崇達 編著 『ピア・ラーニング - 学びあいの心理学 - 』 金子書房 を使用する。											
参考書	随時紹介する											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	講義内における各章の担当発表	80%										
	講義における議論への参加度	20%										
注意事項	積極的に授業に参加し、発言をすること。											
備考												
リンク												
	URL											